

**【全体概要】**本県のトルコギキョウは生産額で全国3位の主産県で、10～12月にかけて出荷する秋出し栽培においては主要産地に位置付けられている。しかし、出荷率の低下が課題となっており、高品質で安定した生産技術の確立が急務となっている。そこで、RTF苗を利用した栽培技術の本県の状況に応じた形で確立し普及させるため、3.0節以上の大苗と水分管理の技術を確立し、県内産地へ広く普及を図る。

## 新品種・新技術等の概要

トルコギキョウではこれまで、定植後のロゼット(未開化)を回避するため2.5節まで種子冷蔵や冷房育苗で育成した苗を定植することが一般的技術であった。

### 【導入する新技術】

- ・抽台を始めた苗(RTF苗)の利用で、定植後の生育揃いが良くなるとされている
- ・定植時期が早くより高温を経過する7月下旬～8月中旬に定植する作型が主体となる本県での生産においては、活着時のリスクを低減するため3.0節以上の大苗による栽培体系の確立を行う

### 【本県での普及状況】

大苗導入面積 R3:0.7ha(7%)



## 主な取組内容

※R4実績

### 【検討会の開催】

産地育成検討会の実施: 1回/5～3月各月 計11回  
トルコギキョウプロジェクトの実施: 6月、8月、1月 計3回  
生産販売検討会の実施: 9月、2月 計2回

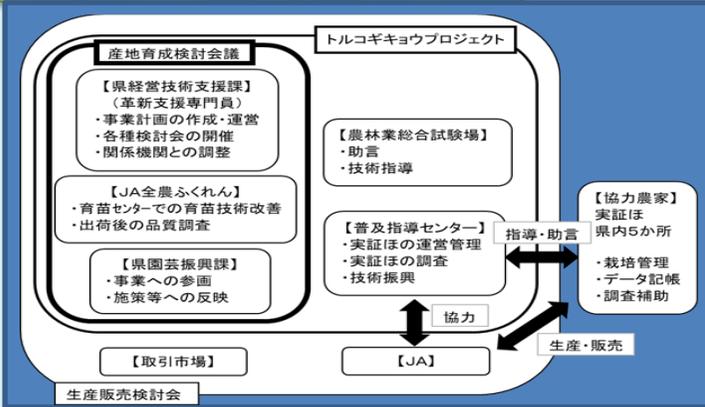
### 【現地実証園の設置】

実証展示ほの設置: 福岡、北筑前、久留米、飯塚、田川の各地域  
計 県内5か所に設置

### 【栽培マニュアル案作成】

秋出しトルコギキョウ栽培の手引きの検討 8月、1月 計2回

## 実施体制図



事業成果は、経営技術支援課が中心となり、普及指導センター、JA、協力農家の協力のもと各産地に普及を図る。

## 課題と今後の対応

※R4実績

### 【1年目の事業実績】

- 実証展示ほの設置 県内各産地5カ所  
1カ所で有意な成績を得られたが、4カ所で品質向上の効果は判然としなかった。
- 栽培の手引き(案)を検討  
秋出しトルコギキョウ栽培の手引き案を検討、技術指導担当者間の情報を共有。
- 大苗導入面積(導入割合) R3:0.7ha(7%) ⇒ R4:2.7ha(29%)

### 【2年目の取組】

1年目の結果から、優良事例におけるかん水管理をより詳細に調査するとともに秋出しトルコギキョウ栽培の手引きを作成することで、大苗を用いた秋出しトルコギキョウの栽培技術の普及を図る。